京都大学デザインスクールと産・官をつなぐ

デザインイノベーションコンソーシアム

design innovation consortium

京都大学デザインスクールと産・官をつなぐ
デザインイノベーションコンソーシアム

CONTENTS

WHO WE ARE
産官学による人材育成の場として ····· 2
OUR PARTNERS
コンソーシアムの組織と会員について ····· 4
DESIGN INNOVATION CENTER
デザインイノベーション拠点 ····· 5
OUR PEOPLE
役員・推進委員・拠点フェロー ····· 6
PROGRAMS
プログラム ····· 8
01. DESIGN SEMINARS
デザインセミナー ····· 10
02. PROFESSIONAL DESIGN CAMP
プロフェッショナル・デザインキャンプ ··· 12
03. DESIGN FORUMS
デザインフォーラム ····· 14
04. SUMMER DESIGN SCHOOL
サマーデザインスクール ····· 16
05. OPEN INNOVATION
オープンイノベーション ····· 18
06. DESIGN INNOVATION CENTER FELLOW
デザインイノベーション拠点フェロー ···· 20
HOW TO GET INVOLVED
ご入会について ····· 22
AFTERWORD
おわりに ····· 23

WHO WE ARE

産官学による人材育成の場として

デザインイノベーションコンソーシアムは、企業・公的機関と京都大学デザインスクール（京都大学デザイン学大学院連携プログラム）をつなぐ中間組織体として、2014年3月に発足しました。産官学が協働し社会の実問題に取り組むなかで、京都大学が持つ知のネットワークやデザイン理論・手法と、さまざまな分野の産業界・行政が持つ社会の実問題を解決する実践力が交わる相互学習の場を形成します。

このような産官学が協働した相互学習により、創造的なプロセスに寄与できるスキルの深さと専門性を兼ね備えつつ、さまざまな立場や専門領域の知見を融合し、コラボレーションを先導できる人材の育成をめざしています。

コンソーシアムの活動内容

- デザイン学に関する人材育成の推進
- 産官学によるオープンイノベーションの推進
- デザイン学に関する共同研究の推進
- その他、コンソーシアムの目的を達成するために必要な事業

コンソーシアムが提供するプログラム

01. DESIGN SEMINARS
デザイン
セミナー
►p.10

02. PROFESSIONAL DESIGN CAMP
プロフェッショナル・
デザインキャンプ
►p.12

03. DESIGN FORUMS
デザイン
フォーラム
►p.14

04. SUMMER DESIGN SCHOOL
サマーデザイン
スクール
►p.16

05. OPEN INNOVATION
オープン
イノベーション
►p.18

06. DESIGN INNOVATION CENTER FELLOW
デザイン
イノベーション
拠点フェロー
►p.20

OUR PARTNERS

コンソーシアムの組織と会員について

デザインイノベーションコンソーシアムは、「会員」制の組織です。会員企業と教員・学生が産官学による相互学習と価値共創、人材育成を通して、従来のビジネスドメインではクロスする機会のない企業や、異なる専門性を持つ多様なプロフェッショナルが協働・協業しイノベーションを創出するためのさまざまな機会を設けています。

運営体制

管理法人：(公財)京都高度技術研究所

総会
会長　1名　　副会長　1名
理事　4名以上　　監事　2名以下
正会員A、正会員B、特別会員

理事会 ― **推進委員会**

会員
正会員A、正会員B、特別会員

事務局
京都リサーチパーク株式会社

正会員A

コンソーシアムの活動と企画に参加し、産官学の新たな連携の創造に参画することを希望する企業・団体

大阪ガス株式会社
オムロン株式会社
川崎重工業株式会社
京都大学 デザイン学ユニット
京都リサーチパーク株式会社
サントリービジネスエキスパート株式会社
株式会社積水インテグレーテッドリサーチ
ソニー株式会社
ダイキン工業株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社竹中工務店
DMG森精機株式会社
東レ株式会社
西日本電信電話株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
株式会社日建設計
株式会社日本総合研究所
日本電信電話株式会社
株式会社野村総合研究所
株式会社博報堂
パナソニック株式会社
日立化成株式会社
株式会社ミサワホーム総合研究所
三菱電機株式会社
ヤマハ発動機株式会社
横河電機株式会社

正会員B

コンソーシアムの目的および事業に賛同して入会することを希望する企業・団体

株式会社NTTデータセキスイシステムズ
株式会社mct
株式会社エンプラス
株式会社沖縄教育出版
鹿島建設株式会社
NPO法人環境カウンセラーズ京都
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構
京セラ株式会社 中央研究所
公益財団法人京都高度技術研究所
株式会社サクラクレパス
JFEスチール株式会社
住友重機械工業株式会社
住友電気工業株式会社
大成建設株式会社
株式会社丹青社
株式会社地域計画建築研究所
株式会社電通
株式会社東芝
日本電気株式会社
株式会社フジタ
株式会社堀場製作所
マルホ株式会社
村田機械株式会社
株式会社村田製作所 コンポーネント事業本部
森ビル都市企画株式会社
ローツェ株式会社
株式会社ワオ・コーポレーション

特別会員

大学・官公庁など、活動および企画に顕著な支援を行う企業など、ならびに助言を行い活動を共にする方

京都府
京都市
京都商工会議所
独立行政法人情報処理推進機構

2016年7月現在

DESIGN INNOVATION CENTER

デザインイノベーション拠点

「デザインイノベーション拠点」は、京都大学デザインスクールにより産官学連携、国際連携、大学間連携、学内連携による教育の推進を目的として、京都大学の吉田、桂、宇治キャンパスと連携先の京都市立芸術大学の中間にある京都リサーチパーク内に設立されたもので、「京都大学デザインスクール」(京都大学デザイン学大学院連携プログラムを実施する活動の通称)を可視化する役割を担っており、研究拠点形成費等補助金(リーディング大学院構築事業費)により整備されています。

本拠点は、2014年3月に発足したデザインイノベーションコンソーシアムの主な活動の舞台となることも想定して整備されています。例えばフューチャーセンターは、コンソーシアムの会員団体によるオープンイノベーションの場として設計されています。本拠点を含め、京都リサーチパーク内では、デザインセミナー、デザインフォーラム、サマーデザインスクール、オープンイノベーションなど各種のプログラムが実施されており、将来はコンソーシアムの活動により本拠点を支えていくことが想定されています。

フューチャーセンター

イノベーションの創出を誘発する空間

15m×20m程度の空間には、持ち運び可能で自由にセッティングできるテーブルや椅子を用意し、ディスカッションが自然発生的に生まれる出会いの場を創造しています。特に、台形テーブルは多様な組合せを可能にし、カラフルな椅子は活気のある雰囲気を醸し出します。

フレキシブルスペース

OUR PEOPLE

役員・推進委員

デザインイノベーションコンソーシアムの役員、
運営を担う推進委員の紹介です。(2016年7月現在)

役員　推進委員

理事
椹木 哲夫
京都大学大学院工学研究科
教授

白井 博志
株式会社博報堂
執行役員 関西支社長

川島 克也
株式会社日建設計
取締役常務執行役員

顧問
大竹 伸一
西日本電信電話株式会社
相談役

委員長
十河 卓司
京都大学デザイン学ユニット
特定准教授

会長
山西 健一郎
三菱電機株式会社
取締役会長

理事
黒橋 禎夫
京都大学大学院情報学研究科
教授

小森 雅晴
京都大学大学院工学研究科
准教授

藤嶋 誠
DMG森精機株式会社
専務執行役員

牧 紀男
京都大学防災研究所
教授

理事
三浦 智康
株式会社野村総合研究所
執行役員
未来創発センター長

理事
山本 和彦
森ビル都市企画株式会社
代表取締役社長

顧問
門内 輝行
大阪芸術大学
芸術学部建築学科
教授
京都大学 名誉教授

中澤 篤志
京都大学大学院情報学研究科
准教授

理事
田中 健一
三菱電機株式会社
役員技監

石田 亨
京都大学大学院情報学研究科
教授

塩瀬 隆之
京都大学総合博物館
准教授

副委員長
畑中 哲夫
株式会社竹中工務店
大阪本店設計部
情報・事務部長

清原 督三
パナソニック株式会社
先端研究本部 技監

瀬尾 和男
三菱電機株式会社
人材開発センター
主管技師長

副会長
守倉 正博
京都大学大学院情報学研究科
教授

理事
宮田 喜一郎
オムロン株式会社
執行役員常務
CTO兼 技術・知財
本部長

貫井 孝
京都大学デザイン学ユニット
特任教授

松井 啓之
京都大学経営管理大学院
教授

野川 真司
西日本電信電話株式会社
技術革新部 技術部門
技術渉外担当 担当課長

理事
松原 厚
京都大学大学院工学研究科
教授

副委員長
木村 千恵子
京都リサーチパーク株式会社
執行役員

山内 裕
京都大学経営管理大学院
准教授

財務担当理事
川上 浩司
京都大学デザイン学ユニット
特定教授

監事
徳賀 芳弘
京都大学経営管理大学院
教授

PROGRAMS
プログラム

　デザインイノベーションコンソーシアムは京都大学デザインスクールと連携し、会員企業の方々に、コラボレーションを先導できる価値ある人材育成の機会として下記のプログラムを提供しています。

Design Innovation Consortium offers valuable opportunities for inter-disciplinary collaborations among both students and faculties of Kyoto University Design School, and Corporate members.

01. DESIGN SEMINARS
　　デザインセミナー
02. PROFESSIONAL DESIGN CAMP
　　プロフェッショナル・デザインキャンプ
03. DESIGN FORUMS
　　デザインフォーラム
04. SUMMER DESIGN SCHOOL
　　サマーデザインスクール
05. OPEN INNOVATION
　　オープンイノベーション
06. DESIGN INNOVATION CENTER FELLOW
　　デザインイノベーション拠点フェロー

01. DESIGN SEMINARS
デザインセミナー

new findings...ideas from the process of working together

協働・協業からの新たな発見や気づき そこから生まれる新たなアイデア

デザインセミナーは、デザインに興味があり、今後ビジネスに活用してみたい方向けのエントリーモデルのひとつです。デザイン対象領域（防災・社会学・経済学・土木工学・エネルギー学・電気電子工学・看護学・医学・農学など）の理論を説く講義と、デザイン思考を実践するワークショップを組み合わせた、3日間集中型のセミナーとして実施しています。

さまざまな業種の企業や京都大学デザインスクールから横断的に集まった参加者が、社会やビジネスにおける複合的な問題を多角的に捉え解決する能力を養成するにあたり、「デザイン」がどのように役立つかを実際に体験し学びます。

- **Series Ⅰ SERVICE DESIGN**
  サービスデザイン
  2014.9.3（水）～ 5（金）
- **Series Ⅱ HEALTHCARE DESIGN**
  ヘルスケアデザイン
  2015.2.4（水）～ 6（金）
- **Series Ⅲ URBAN DESIGN**
  アーバンデザイン
  2015.9.30（水）～ 10.2（金）
- **Series Ⅳ BIGDATA BUSINESS DESIGN**
  ビッグデータビジネスデザイン
  2016.5.19（木）～ 21（土）

Series Ⅰ サービスデザイン
経営学

サービスデザインは、サービス業だけのものではありません。このセミナーでは、サービスについての理論、サービスを理解するための体験に根ざした観察手法、サービスデザインの方法論やツール、サービスをプロトタイピングし検証する手法などを学びました。

参加者より

普段かかわることの少ない業界・職種の方と一緒に学ぶことができ、良い刺激をいただきました。ワークショップを進めるうえでの自分の弱点も見えてきたように思います。もっと企業の事例などについてうかがいたかったです。

非常に有意義な3日間でした。日常業務にどのように生かしていけば良いのか不安ですが、まずはやってみるということをモットーにがんばります。

Series Ⅱ ヘルスケアデザイン
医学

団塊の世代全員が75歳以上を迎え後期高齢者となる2025年。このセミナーでは、日本の医療政策と医療現場の“いま”と“2025年”について理解し、海外の事例を学ぶと同時に、医療現場の抱える話題について議論しました。

参加者より

リアルタイムドキュメンテーションの手法について、普段聞けないようなつっこんだ話を聞くことができ、たいへん勉強になりました。

シナリオプランニングのような思考手法を学んだことがなかったので新鮮でした。

Series Ⅲ アーバンデザイン
建築学

「生命と暮らしを育むスマートコミュニティ」をテーマに、エネルギーや環境問題といったハード面からだけでなく、ライフスタイルやコミュニティ運営を含むソフトな視点からも、持続可能社会のための都市デザインについて議論を深めました。

参加者より

多様なバックグラウンドを持つメンバーと多層なコンテキストを読み込み分析した際、自分の想像していなかった意見・考え方を知ることができました。

重要なポイントがわかりやすく、スマートシティの概念を再考・再整理できました。

Series Ⅳ ビッグデータビジネスデザイン
情報学

20世紀後半からITやセンサーの技術が飛躍的に発展し、大量のデータが集まるようになりました。そこでデータ分析アプリケーションを用いながら、データ利活用におけるPDCAサイクルを社内において構築するための手法を学習しました。

参加者より

ビッグデータを取り巻く環境と実践的な分析を通じて理解が深まりました。

基調講演を通してビッグデータの今、内容というものがよく理解できました。

02. PROFESSIONAL DESIGN CAMP

プロフェッショナル・デザインキャンプ

sharing experiences...
to see its underling potentials

互いの経験を深め
根底にある可能性を見極める

プロフェッショナル・デザインキャンプは、異業種とのコラボレーションに関心のある企業・大学・行政の「価値協創の場」です。異業界を横断するメンバーが、デザイン理論・手法を用いて社会課題の解決をめざすプログラムで、リードカンパニーが提供するテーマについて、これまで協業したことのないような企業からの参加者がチームを組み、新たな価値創出に取り組みます。他社との議論で得た気づき・知識・経験を所属組織に持ち帰り、それぞれの立場で研究開発や事業化に活用するなど、キャンプの3日間にとどまらない成果を得ることができます。

- **PROFESSIONAL DESIGN CAMP 001**
  〈第1回〉2025年徒歩5分圏の空間の暮らし方を考える
  2014.11.18（火）～20（木）
- **PROFESSIONAL DESIGN CAMP 002**
  〈第2回〉作る人のHappy、食べる人のHappy −農と食の未来−
  2016.1.22（金）～24（日）

2025年徒歩5分圏の空間の暮らし方を考える

NTT × ダイキン

徒歩5分圏の生活空間に着目し、そこに住む人の視点から、自分が本当に住みたくなる10年後の街のあり方を参加者全員で考え、コミュニケーション、エネルギー、健康といった観点から問題発見と解決策を立案することで、既存の概念にはない新たなアイデアを生み出すことができました。

参加者より

- 自社のメンバーではありえない発想が刺激になりました。
- 実務でディスカッションが活性していないことが多いため、ぜひ実践してみたいと思いました。
- イノベーションのプログラムを身内で行うのではなく、他社・多業種の人とグループワークで行うことの効果は、思いのほか大きいと感じました。

テーマをご提供頂いたリードカンパニー　NTTサービスエボリューション研究所／ダイキン工業株式会社

作る人のHappy、食べる人のHappy −農と食の未来−

三菱電機 × ヤマハ発動機

現代社会ではフードロス問題や生産現場での後継者問題など、「農」と「食」はさまざまな課題を抱えています。そこで「作る人のHappy、食べる人のHappy」と題し、作る人、食べる人双方のHappyをデザインすることを目的として、未来の「食」を取り巻くシーンについて議論を深めました。

参加者より

- 今後、スキャニングによって視野を広げる手法を試してみたいと思いました。
- 一見交わりそうにないマテリアルからスキャニングなどを行うことで、普段とは違う頭の使い方をすることで自分の視野が広がりました。
- 全然テーマに関係ないことから強制発想することがとても収穫になりました。
- チームのメンバーのさまざまな意見を聞き、そんな考え方もあったのか！と刺激になることが本当に多かったです。
- ひらめき、直感を大事にするという考え方は、今後自分の仕事にも活かしたいと思います。

テーマをご提供頂いたリードカンパニー　三菱電機株式会社／ヤマハ発動機株式会社

03. DESIGN FORUMS
デザインフォーラム

凋落傾向の電子産業に見るように、現在の日本は経済・産業の視点からも大きな転換を余儀なくされ、まさに、産業・ビジネスをグローバルに設計（デザイン）し直す時を迎えています。

このフォーラムでは、デザインスクールとの連携による最新トレンドを捉えたハイレベルなテーマについて、海外・大学・企業を含めた専門家による講演会・ワークショップを、京都大学デザイン学ユニット特任教授の貫井孝氏プロデュースによる「ビジネスデザインシリーズ」、同非常勤講師の寺田知太氏プロデュースによる「ワークショップデザインシリーズ」、京都大学デザインイノベーション拠点フェローの木村千恵子氏プロデュースによる「政策デザインシリーズ」の３構成で開催します。

BUSINESS DESIGN SERIES
ビジネスデザインシリーズ

産業界で活躍中または実績のある企業人を招き、ビジネス現場の実態や課題、その突破口、戦略、人材論などアクチュアルな講義をいただきます。

WORKSHOP DESIGN SERIES
ワークショップデザインシリーズ

最前線でワークショップを企画・運営するワークショップデザイナーを招き、設計論や心構え、ノウハウを語っていただきます。

POLICY DESIGN SERIES
政策デザインシリーズ

国の中枢で政策立案する方々を招いて、いま話題の政策テーマの立案の背景、プロセス、めざすべきところ等についてご講演いただき、参加者を交えた意見交換をします。

BUSINESS DESIGN SERIES
ビジネスデザインシリーズ

第１回　「エレクトロニクス製造業の成り立ち、課題、そしてその再興に向けて」
講師：貫井 孝（京都大学デザイン学ユニット特任教授、元シャープ株式会社常務執行役員）
2014年8月1日（金）

第２回　「ユビキタス社会の要、端末ディスプレーの世界展開はいかにして成し得たか ── 開発、事業化、グローバルビジネスを振り返る ──」
講師：村松 哲郎（大阪大学産業科学研究所特任教授、元シャープ株式会社執行役員・本部長）
2014年10月23日（木）

第３回　「ファッションからエレクトロニクス・航空・宇宙まで、化学から生まれた先端素材が世の中を変える」
講師：出口 雄吉（東レ株式会社専務取締役・経営企画室長）
2014年12月19日（金）

第４回　「イノベーションに向けてチームで響きあう研究開発 ── 将来に向けた新たな価値創造を目指して ──」
講師：牧村 実（川崎重工株式会社常務取締役技術開発本部長）
2015年3月25日（水）

第５回　「東証主催「企業価値向上大賞」受賞　── オムロン株式会社、企業価値向上の取り組みとヘルスケア事業戦略について ──」
講師：宮田 喜一郎（オムロン株式会社執行役員常務CTO兼技術・知財本部長）
2015年7月1日（水）

第６回　「海外グローバル拠点構築、オペレーションの実態 ── 海外赴任28年間で体得したこと ──」
講師：菅野 信行（株式会社ビジネスコンサルティングプロモート顧問、元シャープ株式会社専務取締役中国本部長）
2015年10月5日（月）

第７回　「QoL（Quality of Life）の実現に向けたパナソニックの挑戦 ──サービスソリューション、ビジネスモデルの変革を通じての取り組み ──」
講師：竹川 禎信（パナソニック株式会社エコソリューションズ社常務）
2015年12月14日（月）

第８回　「水と生きる『Suntory』、お客様に感動していただける商品造りを目指して ──世界最高峰のビールを追い求め続けるものづくり現場からの発信 ──」
講師：横山 恵一（サントリービジネスエキスパート株式会社執行役員・SCM本部原料部長）
2016年3月28日（月）

第９回　「2030年を展望する ── 求められる四次元企業への転身 ──」
講師：嶋本 正（株式会社野村総合研究所取締役会長）
2016年6月30日（木）

WORKSHOP DESIGN SERIES
ワークショップデザインシリーズ

第１回　「政策デザインとワークショップデザインの交差点から」
ゲスト：塩瀬 隆之（経済産業省産業技術環境局産業技術政策課課長補佐）
2014年5月24日

第２回　「鉛筆が教えてくれるワークショップ成功の秘訣」
ゲスト：やまざきゆにこ（グラフィックファシリテータ）
2014年7月12日（土）

第３回　「グラフィックレコードで行うUXデザインワークショップ」
ゲスト：清水 淳子（Yahoo! JAPAN　UXデザイナー）
2014年10月25日（土）

第４回　「デザインしない演劇ワークショップのデザインとは？」
ゲスト：蓮行（大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任講師）
2015年1月24日（土）

第５回　「ワークショップで問うべき『問い』をデザインしよう！」
ゲスト：安斎 勇樹（東京大学大学院情報学環特任助教）
2015年4月25日（土）

ワークショップデザインシリーズ全５回
「ビジネス・コミュニケーションリーダー養成講座」

POLICY DESIGN SERIES
政策デザインシリーズ

第１回　「デザイン思考活用に関する政策研究セミナー」
講師：藤澤 崇彦（経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課課長補佐・デザイン政策室室長補佐）
2015年3月20日（金）

第２回　「サイバーセキュリティに関する政策研究セミナー」
講師：谷脇 康彦（内閣官房内閣審議官・内閣サイバーセキュリティセンター副センター長）
2015年12月8日（火）

特別編　「IoTの未来を構想する」
講師：桑津 浩太郎（株式会社野村総合研究所ICT・メディア産業コンサルティング部長）
2016年4月12日（火）

04. SUMMER DESIGN SCHOOL

サマーデザインスクール

creating the innovative ideas through effective collaborations of companies and students

企業と学生のコラボから生まれる斬新なアイデア

サマーデザインスクールは、京都大学デザインスクールの問題発見型学習および問題解決型学習を学内外に広く開放したものです。さまざまな専門性を持つ受講者と講師陣がテーマに分かれ、社会の実問題に挑む3日間の集中型ワークショップです。ここで扱う「デザイン」とは、プロダクトデザインやグラフィックデザインばかりではなく、社会のシステムやアーキテクチャのデザインも含みます。

サマーデザインスクールの大きな特徴は、300名を超す意欲の高い学生、社会人、教員が集まり熱心にテーマワークに取り組むという点で、より良い成果を求めて受講者も講師陣も切磋琢磨する相互学習の場になっています。ゼロからスタートし、3日目のプレゼンテーションまでの間に、さまざまな専門性を持つ学生と社会人のコラボレーションから、新たな視点や斬新なアイデアが数多く生まれます。

サマーデザインスクールでは、複雑な問題を解決するため、受講者が普段から培っている専門性（例えば、情報学、機械工学、建築学、経営学）の発揮に加え、デザイン理論とデザイン手法の習得と実践が必要となります。会員団体はサマーデザインスクールにテーマを提案・実施することができ、また会員団体の構成員は受講者として参加することができます。

サマーデザインスクールの成果は最終日のプレゼンテーションで参加者全員に披露され、優秀賞が選ばれます。

SUMMER DESIGN SCHOOL SINCE 2011

サマーデザインスクール 最近の実施テーマ

2013 9月25～27日 京都リサーチパーク

- チームワークのデザイン
- 不便益なシステムの設計とプロトタイピング
- 自転車の盗難対策をデザインする
- オープンエデュケーションとビッグデータを利用したPersonalized Learning 支援環境のデザイン
- 表現することをとおした対話の創出 ―オープンイノベーションの場をデザインする―
- 7年後に生まれる情報サービス：企業と顧客の新しい関係性を考える
- 科学コミュニケーション・ツールとしてのゲームデザイン
- 「分散×協調」による社会システムのデザイン
- 街におけるICTサービスデザイン
- 「IT」×「モノづくり」で実現するプロトタイプデザイン
- コミュニケーションカフェのサービスデザイン
- 授業紹介をゲームとしたコミュニケーションの場のデザイン
- （ほぼ）誰でも（ほぼ）何でもつくれる世界のデザイン
- 京の夜をいろどるアルゴリズミックなあかり
- 人とクルマのコミュニケーションデザイン ―より良いクルマ社会を目指して―
- これまでにない参加型ニュースメディアをデザインする
- カードゲームをつくろう
- ハイスピードカメラによる自然現象に基づく有機的デザインの生成
- 高さ1メートル未満から見える世界のデザイン
- 2050年の京都をシミュレーションで予測する
- シームレスな健康×診療サイクルのデザインによる未来の患者体験の創造
- 次世代の「働き方」と「働く場」をデザインする
- 災害のトータルデザイン
- 次世代パン工場のデザイン
- 伝統的木造住宅の耐震診断・耐震改修促進策のデザイン

2014 9月24～26日 京都リサーチパーク

- 学び方のデザイン ―盲点を見つけよう
- 20年後の未来を支える初等教育環境のデザイン
- 街角観察におけるICTサービスデザイン
- 行為情報のデザイン
- 社会的問題の理解と解決のためのゲームデザイン
- kickstart
- 2050年の京都の交通をシミュレーションで予測する
- フィールドベースの不便益システムデザイン *English available
- 理想の社会のための新しい受験システムをデザインする
- 「ペットと人の共生社会デザイン
- 御堂筋における街路を軸とした都市活性化デザイン
- イキイキとしたライフスタイルの支援デザイン *English available
- シェア時代のデザイン
- 商業施設におけるM2Mネットワークデザイン
- 孤独死を楽しく防ぐ介護オーケストレーションのデザイン
- PLAYFUL 空間大作戦：タッチ、アタッチ＆デタッチ
- ハイスピードカメラを使って日本文化を表現し、プロジェクションマッピングデザインを考えよう
- ハンディキャップをもった人が活躍できるサービス
- コミュニケーションカフェのサービスデザイン ― エクスペリエンスを超えて ―
- お墓参りのリデザイン

2015 9月16日～18日 京都リサーチパーク 推奨テーマ「京都」

- 京都を世界のイノベーションハブに！
- 京都のマンションの安心のデザイン：防災面を中心に
- 京都の中小・ベンチャー企業の魅力を学生に伝える方法をデザインする
- ドローンで京都の空中散歩をデザインする
- 京都を訪れる外国人のためのサービスデザイン
- プロダクト・デザイナーのアイディア発想法から学ぶ ―“新しい京みやげ”を題材として―
- 卸売市場を核に街の魅力を創出するサービスデザイン
- 「健常者も憧れるスーパー車椅子」構想
- ESCORT DESIGN お出迎えからお見送りまでのデザイン
- きかいな住まい、京都にて。
- バカげた「竹」の使い方をデザインする
- 二度目の京都旅行を認知心理学でデザインする
- 2020年における京都の子供たちの為の「学びの場」のデザイン
- ふたたび足を運びたくなる場をデザインする ～世代を超えて愛される老舗に学ぶ～
- Scannable KYOTO／知のエコロジー・新京都学派のサロン ―文脈を探索し、文脈をデザインする―
- 京都観光に不便益な仕掛けのデザイン
- データでデザイン！（Data de Design !）
- 文化的な視点の発見と知的好奇心による図鑑
- ドローンを極める
- 個人情報を“使って”医療と介護を創るデザイン
- Kawaiiをデザインする
- IoTと屋内位置情報の連携による新たなサービスのデザイン （東京オリンピック施設での実現を目指して？？？）
- Save World's Endangered Languages !（世界の危機言語を救え！）
- 老人とIT
- ワークショップのための情報技術を考えよう
- 動かない自動車を活用するデザイン
- 通勤・通学の“時間の過ごし方”をデザインする
- 「問いの教科書」をすてる

05. OPEN INNOVATION
オープンイノベーション

discussing each of ideas with assembled experts
案件ごとに専門家を招いて議論する

変化の激しい時代において、組織内に閉じた検討により課題の解決策を見い出すには限界があり、オープンイノベーションへのニーズは年々高まっています。このプログラムでは、会員団体が抱える課題に対して、会員団体と京都大学デザインスクールが協働し、学際的なアプローチにより生まれたアイデアを組み合わせることで革新的で新しい価値を創り出します。

あらかじめ提示された具体的な研究課題を大学の主体性のもとに推進する従来の共同研究とは異なり、ここでは現状観察や分析を通して会員団体が抱える課題や真に解決すべき問題の存在を発見することから始め、京都大学をはじめとするさまざまな分野の高度な専門家の知のネットワークを最大限に活用し、案件ごとに最適と思われる専門家をフレキシブルに選定し、柔軟な発想をする学生や会員団体と共にワークショップを連続的に開催することにより、課題の解決策をデザインします。

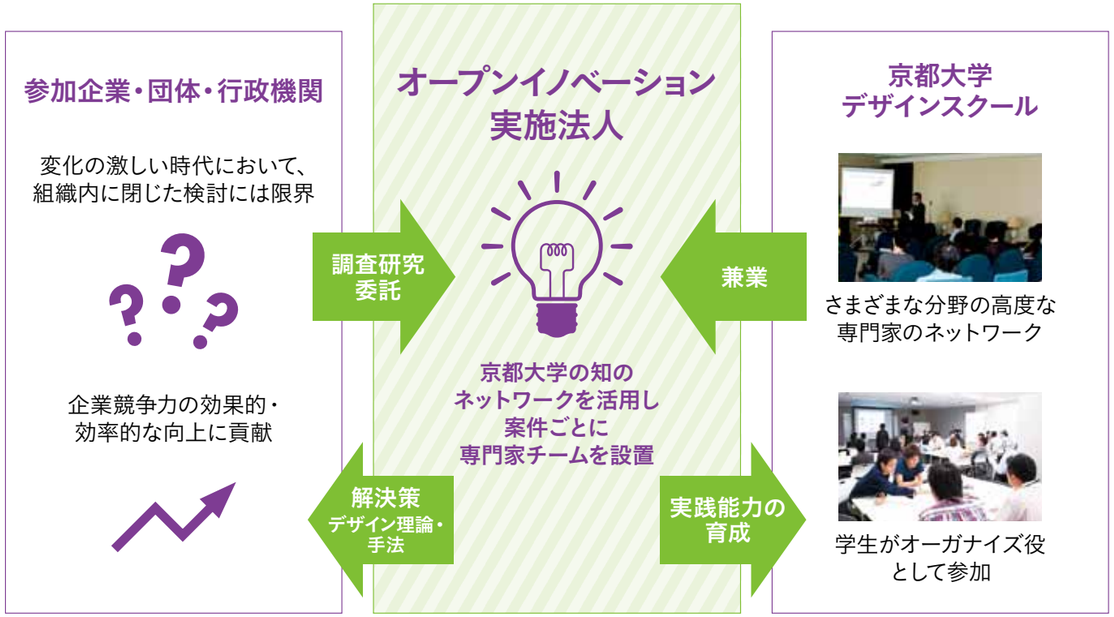
会員団体にとっては、これまでに接点のなかった領域の専門家や、多様な組織・個人などと協働する機会が得られ、自組織内にはない新しい視点から、まだ明確化されていない諸課題の解決策を探索できます。さらに、デザイン理論やデザイン手法を実践的に学ぶことのできる人材育成の機会となります。

オープンイノベーション実習

オープンイノベーションの一部分を、京都大学デザインスクールにおける博士科目「オープンイノベーション実習」として実施しています。履修者は、企業や自治体、専門家などからなるオープンイノベーションチームのオーガナイズ役として参加し、コミュニケーション能力やマネジメント能力を鍛えるとともに、実践を通じてデザイン活動を成功に導くためのデザイン理論やデザイン手法を身に付けます。

将来の都市生活・空間を変革するエレベータのデザイン

19世紀に発明され、すでに完成の域に達していると思われるエレベータについて、課題提供者である三菱電機（株）とともに、産学連携のオープンイノベーションによりその将来の姿を探りました。学生を主体とするワークショップでは、エレベータを代替する移動手段も含めてさまざまなアイデアを自由に創出しました。また、建築、防災、機械の各分野の第一線で活躍されている専門家をお招きし、各分野から見たエレベータの役割やニーズなどについての対話を通して、専門的知見に基づくさまざまなアイデアを頂きました。



06. DESIGN INNOVATION CENTER FELLOW

デザインイノベーション拠点フェロー

beyond the boundaries of...
organization,discipline,
conventional thinking

組織・領域・従来の枠をこえて

デザインイノベーションコンソーシアムの正会員Aを対象に、デザインイノベーション拠点における産官学連携活動の活性化に向けて、京都大学デザインスクールの教員と協働し企画・運営段階から価値共創の創発・人材育成に携わっていただける機会である「フェロー制度」を設けています。

正会員Aは、デザインイノベーション拠点フェローI名を推薦できます。フェローになるには、京都大学デザインスクールプログラム担当者の教員の推薦とデザイン学ユニット教授会での承認が必要となります。そして、フェローには拠点に入出可能な入館証をお渡しし、京都大学デザインスクールと共に活動いただけます。

【拠点フェローの活動】

- 京都大学デザイン学の教員・研究員との産官学連携活動
- デザイン学共通科目の視聴
- デザインフォーラム等の各種イベントの企画や参加
- 問題発見・解決型学習（FBL／PBL）などの実習や研究活動の成果発表会への参加
- その他拠点を活用した新たな活動の運営企画

フェローより

木村 千恵子
京都リサーチパーク株式会社
執行役員

1990年代から、日本において本格的な産学連携施策が実施されてきました。国立大学法人の設立、知財の管理体制、兼業に関わる制度設計等、日本の制度改革は格段に進んできました。しかしながら、いまだ日本がめざすべきモデルが組成されるに至っていません。日本の大学風土、企業文化、また個人の価値観により醸成された産学連携のあり方をどのようにデザインできるか、試行的に実践しながら理論化、論文化をめざします。

畑中 哲夫
株式会社竹中工務店
大阪本店設計部 情報・事務部長

まちや建築のあり方が多様化する中で、人々が安全安心で豊かに暮らせるまちづくり、建築づくりのために求められる機能は高度化、複雑化しています。環境への配慮はもちろん、健康で快適な空間づくり、幸せや歓び、育みといった「人への優しさ」という視点も重要です。自身の建築設計と建築情報の業務経験をベースに、多方面からまちや建築が求める新たな価値や魅力を創出するデザイン方法論の構築と実践をめざします。

今井 紘
オムロン株式会社
技術・知財本部企画・CTO支援室先行技術推進課主査

社会が成熟し価値観が多様化する中で、問題提起をする能力、シンプルで強力な解決策を構想し実行する能力を研ぎ澄ませることが、技術開発の現場に今まさに求められていることだと思います。このような課題認識のもと、デザイン学の教員・研究員との産学官連携活動を通じて、多様な専門領域を持つ人材による①「顧客観察に基づいた問題発見と複合的な視点からの問題定義」②「融合領域での最適な解決策と実行プラン」をデザインしていきたいと考えています。

白井 博志
株式会社博報堂
執行役員 関西支社長

博報堂が企業理念として掲げる「生活者発想」は、ひとことで言えば［消費者＜生活者］という考え方です。暮らしの作り手である人間を「まるごと」観察し、その根源にある価値観や欲求の変化を読み解いていく……。今後イノベーションも、ますます生活者発想が重要になると思います。マーケティング・ブランディングの実務経験を活かして、デザインイノベーションの活性化・発展のお手伝いができるよう頑張りたいと思います。

磯崎 彦次郎
株式会社野村総合研究所
社会システムコンサルティング部 主任コンサルタント

デザイン思考を活用したコンセプトメイクをコンサルティングする場合、現場観察により新たな気づきを得たり、各種の思考法を駆使してアイデアの収束・発散を行うところは成功裏に進めやすい。しかし、思考のプロセスや結果を表現して改善する段階でつまづくケースが多い。コンセプトメイクに必要なさまざまなプロトタイプ手法を観察・分類し、実験的に特定の手法を試す中で、プロトタイプの在り方をデザインしたいと考えます。

泉福 剛
三菱電機株式会社　デザイン研究所

人の本質を掴むような気づきを得た時のワクワク感、冴えたアイデアを創出した時の気持ち良さ、できあがったデザインに喜んでもらえた時の達成感が楽しくてデザインを続けています。その中で最近、サービスや社会システムなどの提案が増え、デザイン領域の広がりや、取り組まれる方の専門分野が多様化していることを実感しています。拠点フェローとなったのを機に、さまざまな領域のデザインについて皆さまと考えてみたいと思っています。

栗田 恵吾
株式会社日本総合研究所
未来デザイン・ラボ　ディレクター

「未来は今ここにある」。これはSF作家ウィリアム・ギブスンの言葉ですが、未来変化の兆しを直観的に掴むことで先入観や硬直化した思考を解放し、未来を自らの手で創り上げていく創造的な人材・組織・プロセス・ネットワークなど、イノベーションのためのエコシステムの開発に貢献していきたいと考えています。私からは未来洞察ワークショップという方法論の提供を通じて、「本質的な課題を発見・共創する力」を支援していきたいと思います。

加藤 泰久
日本電信電話株式会社
サービスエボリューション研究所 主幹研究員

NTTグループ全体のサービスデザインの推進に取り組むなかで、個社での取組の限界や、他者とのコラボレーションの必要性を大いに感じています。そのため、ここでは大学や企業の多様な人々とのコラボレーションができると期待しています。企業内にサービスデザインを定着させて、実践し続けるには何をどうすればよいのか、日々の業務の中で活用し実践し続けるための工夫にはどのようなものがあるのか、皆さんと議論して実践していきたいと思います。

鉄川 弘樹
ソニー株式会社
研究開発企画部門・技術戦略部 統括部長

HOW TO GET INVOLVED
ご入会について

正会員 A
コンソーシアムの活動と企画に参加し、産官学の新たな連携の創造に参画することを希望する企業・団体

年会費：30万円

活動範囲

デザインイノベーション拠点フェロー1名の推薦

【拠点フェロー活動】
- 京都大学デザイン学の教員・研究員との産官学連携活動
- デザイン学共通科目の視聴
- デザインフォーラム等の各種イベントの企画や参加
- 問題発見・解決型学習（FBL ／ PBL）などの実習や研究活動の成果発表会への参加
- その他拠点を活用した新たな活動の運営企画

【セミナーへの参加】
- デザインフォーラムシリーズ等の受講
- デザインセミナー受講
- プロフェッショナル・デザインキャンプ受講
- サマーデザインスクールへのテーマ提供と実施
- サマーデザインスクールへの参加
- オープンイノベーションの提案

正会員 B
コンソーシアムの目的および事業に賛同して入会することを希望する企業・団体

年会費：5万円

活動範囲

【セミナーへの参加】
- デザインフォーラムシリーズ等の受講
- デザインセミナー受講
- プロフェッショナル・デザインキャンプ受講
- サマーデザインスクールへのテーマ提供と実施
- サマーデザインスクールへの参加
- オープンイノベーションの提案

特別会員
大学・官公庁など、活動および企画に顕著な支援を行う企業など、ならびに助言を行い活動を共にする方

年会費：無料

活動範囲

［デザインイノベーション拠点フェロー以外は正会員Aと同等］

デザインイノベーションコンソーシアムでは、目的及び事業に賛同して頂ける
企業・団体の会員を募集しております。入会をご希望の方は、事務局までお問合せ下さい。
info@designinnovation.jp

※個別の活動に参加する場合には、活動ごとに別途費用を要します（会員種別に応じた割引が適用されます）。

AFTERWORD
おわりに

デザインイノベーションコンソーシアムは、俯瞰力と独創性を備え社会の実問題に挑戦する人材を育てるための産学官連携組織です。社会は今、温暖化、災害、エネルギー、食糧、人口など、複合的な問題の解決を求めています。産業界や行政の関心事であるスマートシティ、ヘルスケア、ビッグデータ分析などの課題も、高度に機能分化が進んだ現在では、一つの専門分野で解決することはできません。こうした傾向は、大学の博士課程に大きなジレンマを生じさせています。専門の深さだけではなく関心の広さを併せ持ち、学術的な活動だけではなく多様な協働を通じて実問題を取り組む人材が求められているからです。

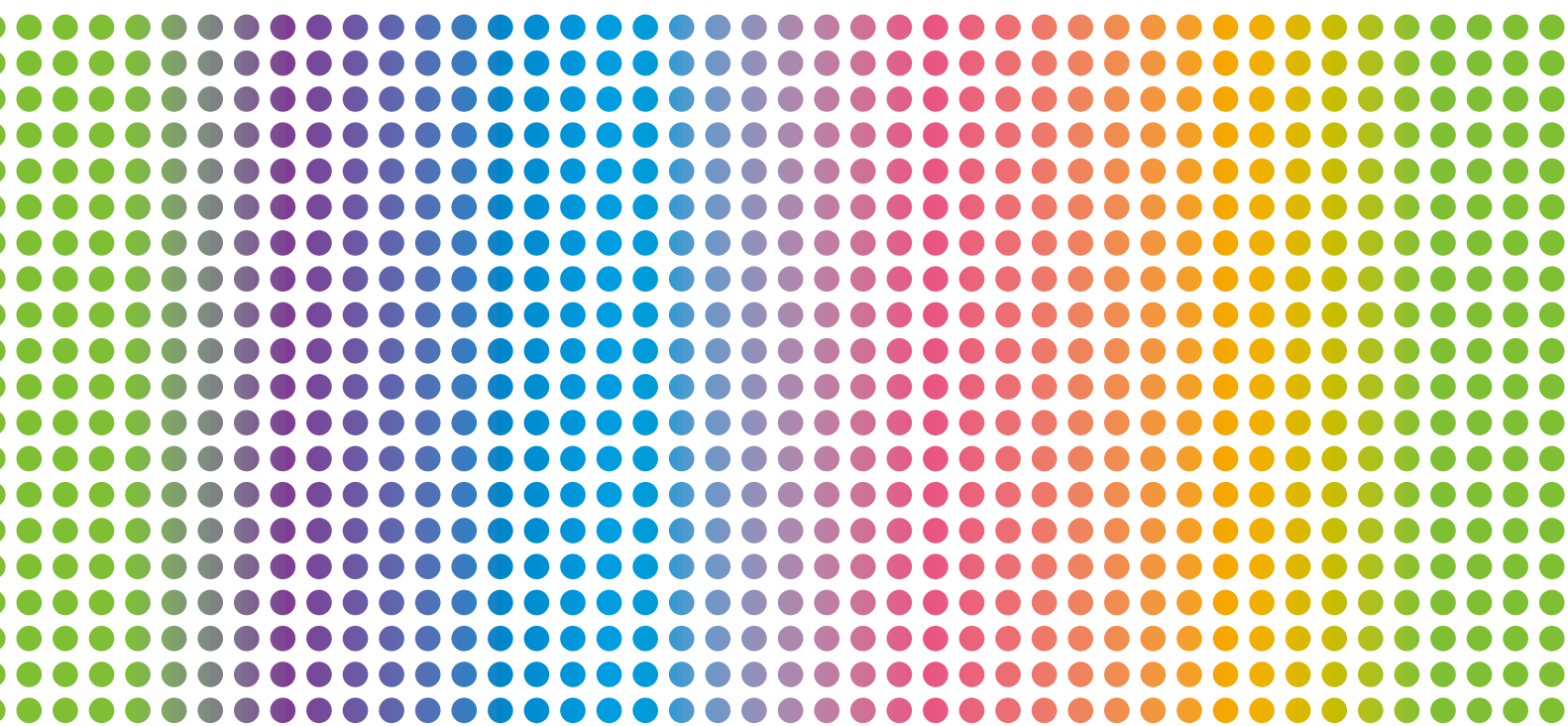
そこで京都大学では、平成25年度より「デザイン学大学院連携プログラム」を開始しました。情報学研究科、工学研究科、教育学研究科、経営管理大学院の4部局11専攻に跨がる5年一貫の博士課程プログラムです。専門分野としては、情報学、建築学、機械工学、心理学、経営学を含みます。しかし、デザインの対象はさらに広く、医学、農学、理学、法学など多様な分野に広がりますので、さまざまな協働が必要となります。こうして生まれる幅広いデザイン活動を「京都大学デザインスクール」と総称しています。

ところで、デザインの主体が大学だけでよいはずがありません。そこで、多くの企業、自治体のご協力で「デザインイノベーションコンソーシアム」が発足しました。また、その活動の中心となるよう、京都リサーチパークに「デザインイノベーション拠点」を開設しました。本拠点を中心として社会の実問題に取り組み、将来を支える人材の育成に務めたく思いますので、コンソーシアムへのご参加とご協力をお願いいたします。

京都大学デザイン学大学院連携プログラム　コーディネータ
京都大学大学院情報学研究科教授　石田 亨

発　行：京都大学デザイン学大学院連携プログラム
連絡先：デザインイノベーションコンソーシアム事務局
京都リサーチパーク株式会社
〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134
info@designinnovation.jp　http://designinnovation.jp/

©2016 Design Innovation Consortium All Rights Reserved.
本書の無断複写・複製・転載を禁じます。



Design Innovation Consortium

http://designinnovation.jp/